

# 第1章

## 富士市の現状、 まちづくりの課題及び 方向性

- 1 富士市の現状
- 2 富士市のまちづくりの課題
- 3 富士市のまちづくりの方向性

# 第1章

## 富士市の現状、まちづくりの課題及び方向性

### 1 富士市の現状

#### 1-1 現状と将来見通し

##### 1 人口・世帯

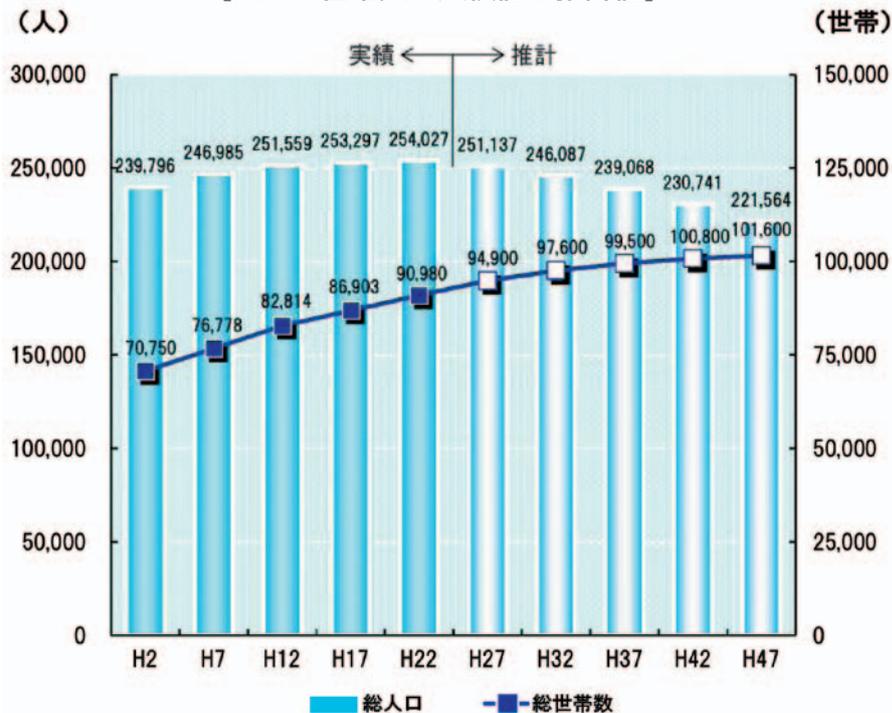
平成22年の本市の人口は約25万4,000人で、近年はほぼ横ばいで推移していますが、最新の人口動向では既に減少に転じています。

一方、世帯数は約9万1,000世帯で、増加傾向が続いています。

年齢階層別人口割合は、15歳未満の年少人口、15歳以上65歳未満の生産年齢人口それぞれの割合が減少傾向にある一方、65歳以上の老年人口割合が増加傾向にあります。

以上のことから、今後、本市の人口は減少傾向のまま推移するとともに、高齢化率はさらに高まり、人口減少・超高齢社会が本格的に到来することが予想されます。

【人口・世帯数の実績値と推計値】



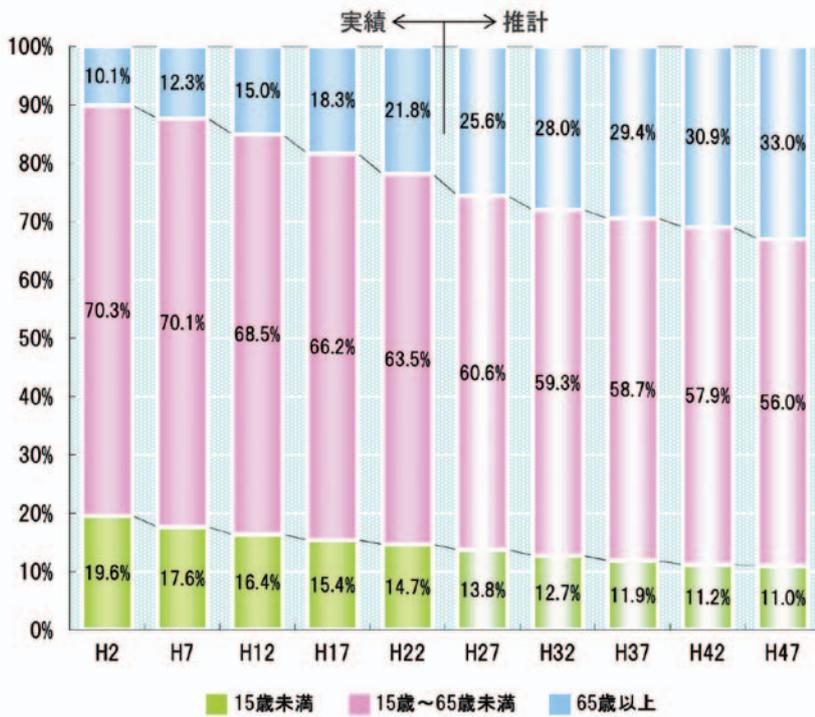
出典：国勢調査等

※H22までの人口・世帯数は、国勢調査による実績値

※H27以降の人口は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値（H25.3推計）

※H27以降の世帯数は、1世帯あたり人口の推計値と将来人口推計値により算出した推計値

【年齢階層別人口割合の実績値と推計値】



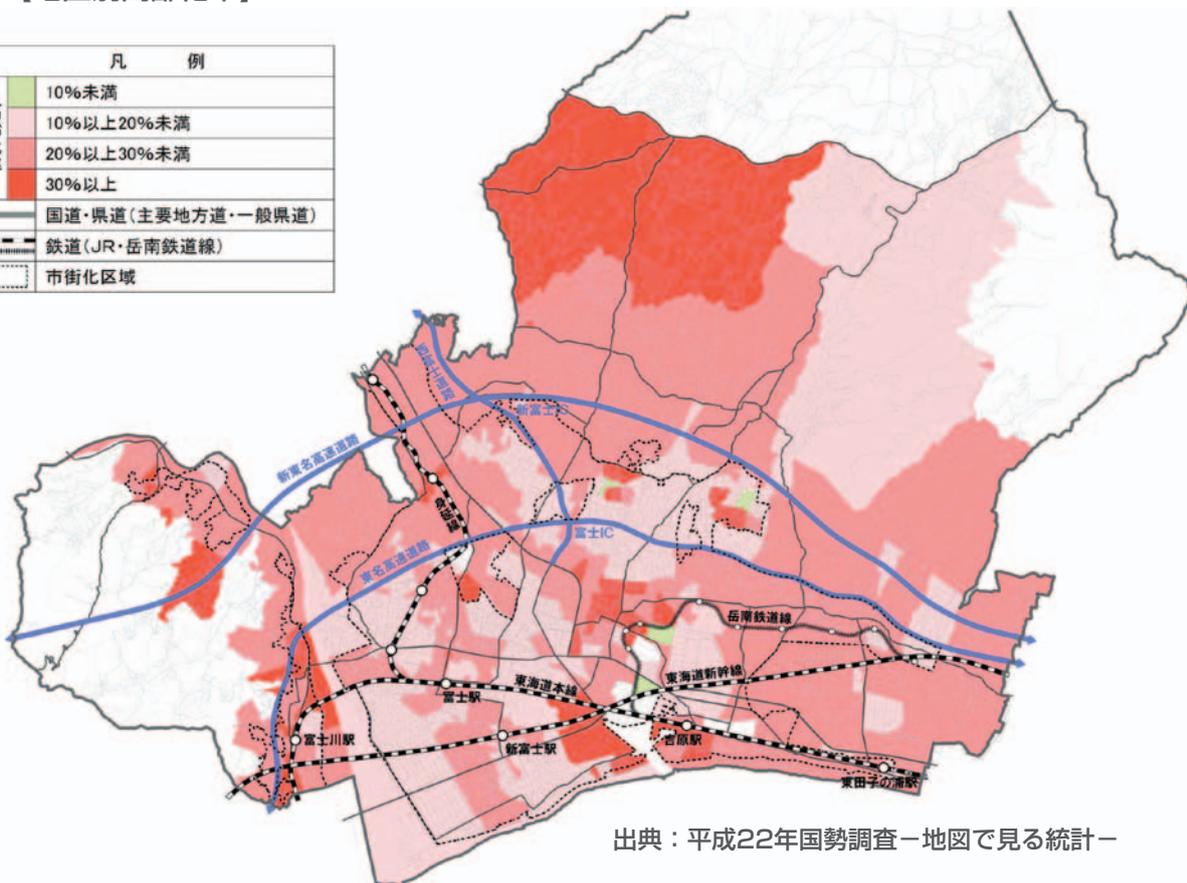
出典：国勢調査等

※H22までは、国勢調査による実績値

※H27以降は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値（H25.3推計）

【地区別高齢化率】

凡 例	
10%未満	10%以上20%未満
20%以上30%未満	30%以上
国道・県道(主要地方道・一般県道)	鉄道(JR・岳南鉄道線)
市街化区域	



出典：平成22年国勢調査－地図で見る統計－

第1章 富士市の現状、まちづくりの課題及び方向性

1 富士市の現状

富士市のまちづくりの課題

富士市のまちづくりの方向性

## 2 産 業

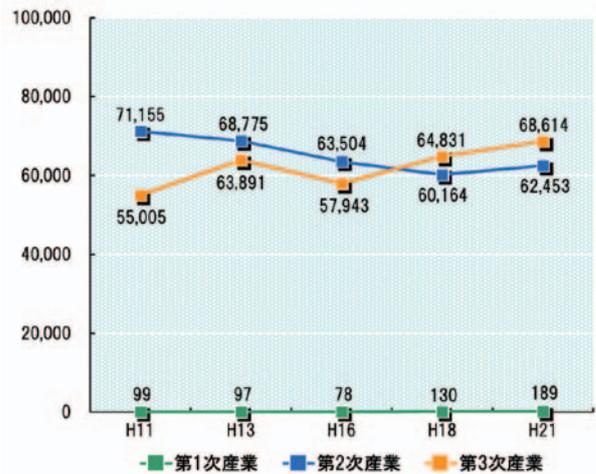
本市の産業別従業者数は、製造業などの第2次産業が減少傾向に、サービス業などの第3次産業が増加傾向にあり、平成18年以降は第3次産業が第2次産業を上回っています。

また、製造業の事業所数は減少傾向が続いているほか、平成15年以降増加傾向にあった製造品出荷額は、平成21年に大幅に減少しています。

また、商店数や商品販売額は経年的に減少傾向にあります。

以上のことから、近年、本市では産業構造が変化してきていることや、景気低迷が長引いていることにより、産業活力が低下してきていることが読み取れます。今後は、不安定な景気動向に加え、平成23年3月の東日本大震災以降の災害リスクの高まりなどを背景に、企業の設備投資額の縮小や市外への事業所の移転など、産業活力の低下が加速し、本市の経済・雇用情勢のさらなる悪化を招くおそれがあります。

【産業別従業者数の推移】



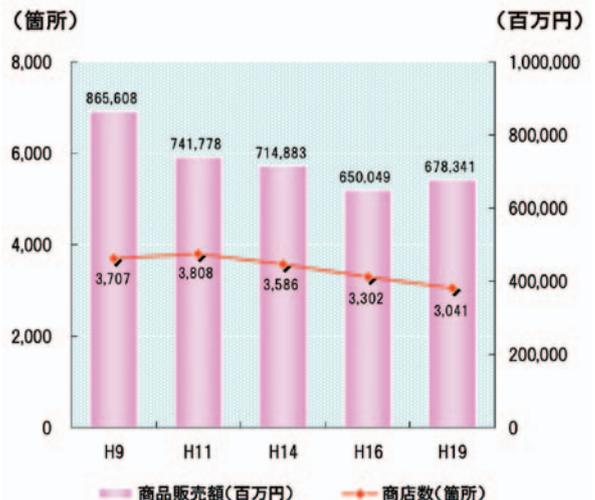
出典：事業所・企業統計調査及び経済センサス

【製造品出荷額等の推移】



出典：工業統計調査

【商品販売額の推移】



出典：商業統計調査

### 3 土地利用

本市のD I D（人口集中地区）は、面積・人口ともに年々増加しているものの、D I D人口密度は年々低下してきており、平成22年は約41.1人/haと、全国や静岡県 averages と比べてかなり低い水準にあります。

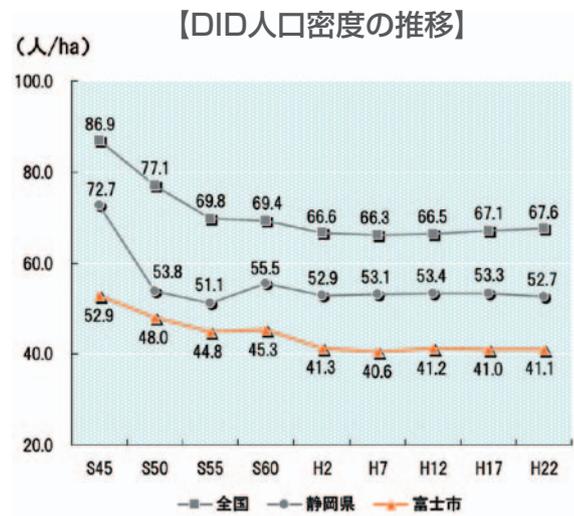
また、人口密度を地区別で見ると、富士駅周辺や吉原中央駅周辺などの「まちなか」よりも、市街化区域の縁辺部で上昇している傾向にあります。

さらに、近年、「まちなか」では小・中規模の店舗が多く撤退しているのに対し、郊外の市街地等では中・大規模の店舗が多く出店しています。

以上のことから、本市では、市街地が低密度に拡散した「拡散型都市構造」が形成されていると言えます。この状況が今後も続いた場合、郊外部では開発が一層進み、中心部の都市機能の集積度はますます低下することが予想され、魅力に乏しく、活力のないまちが形成されるおそれがあります。

第1章 富士市の現状、まちづくりの課題及び方向性

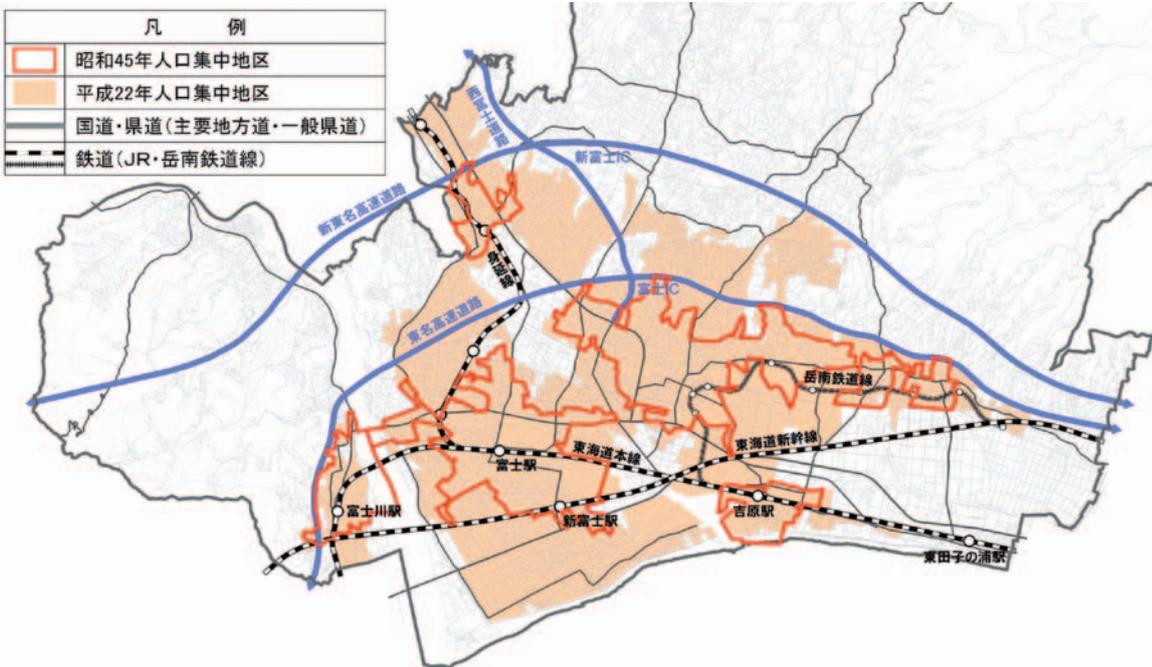
- 1 富士市の現状
- 2 富士市のまちづくりの課題
- 3 富士市のまちづくりの方向性



出典：国勢調査

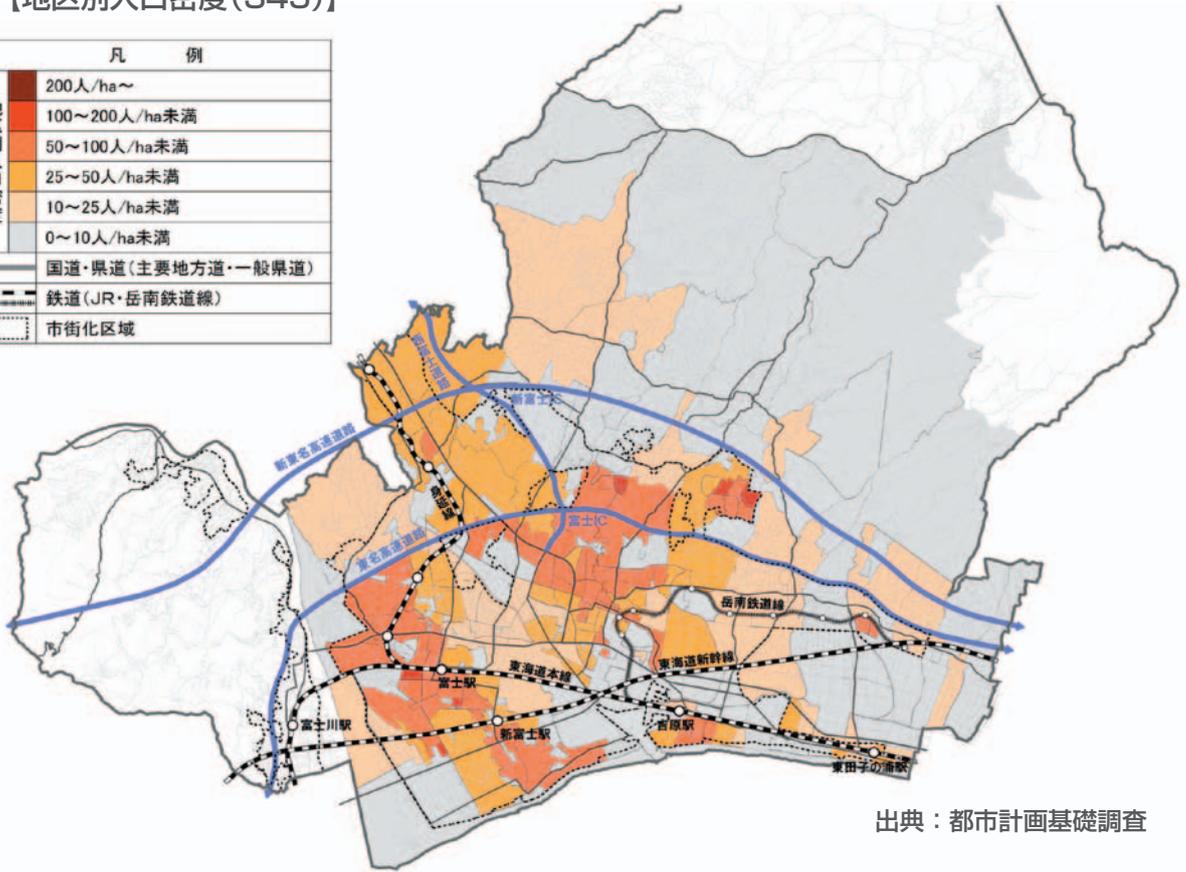
出典：国勢調査

#### 【DIDの推移(S45→H22)】



【地区別人口密度(S45)】

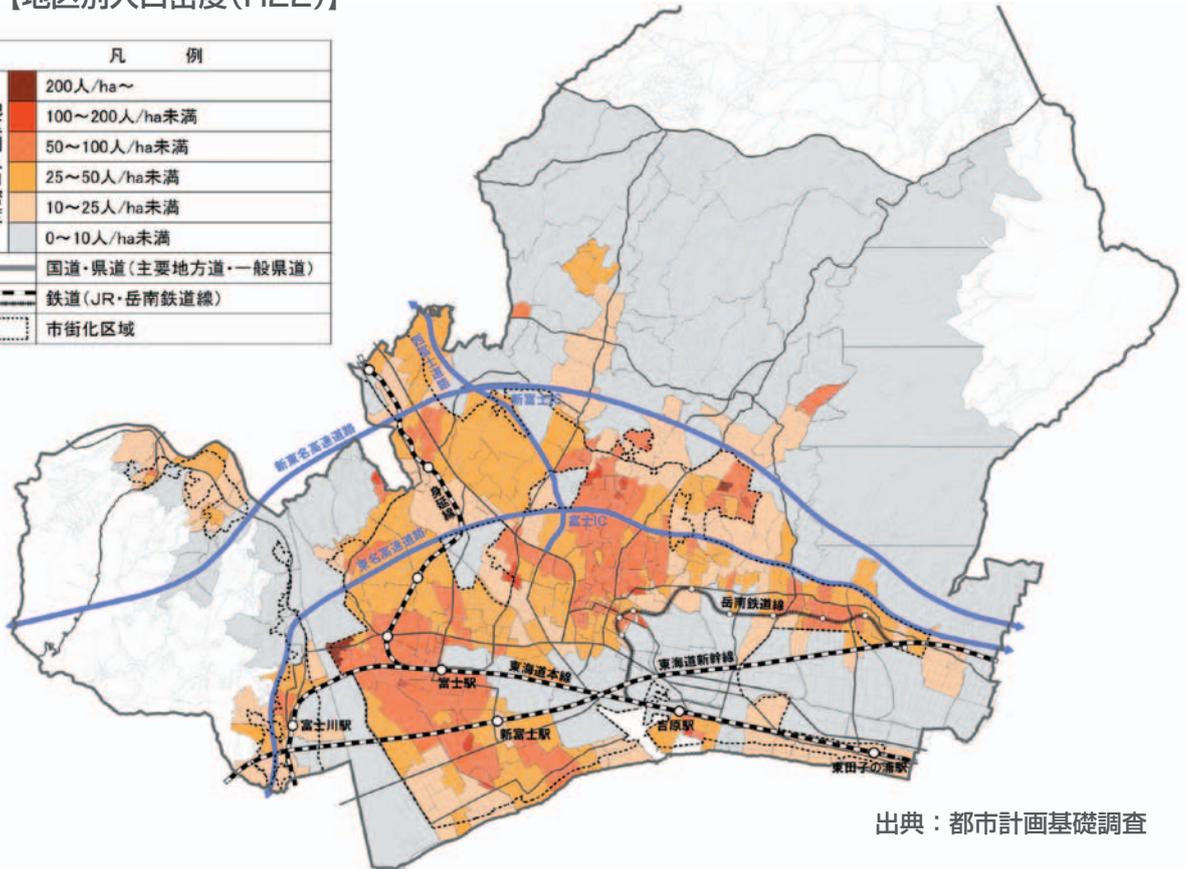
凡 例	
200人/ha～	
100～200人/ha未満	
50～100人/ha未満	
25～50人/ha未満	
10～25人/ha未満	
0～10人/ha未満	
国道・県道(主要地方道・一般県道)	
鉄道(JR・岳南鉄道線)	
市街化区域	



出典：都市計画基礎調査

【地区別人口密度(H22)】

凡 例	
200人/ha～	
100～200人/ha未満	
50～100人/ha未満	
25～50人/ha未満	
10～25人/ha未満	
0～10人/ha未満	
国道・県道(主要地方道・一般県道)	
鉄道(JR・岳南鉄道線)	
市街化区域	



出典：都市計画基礎調査

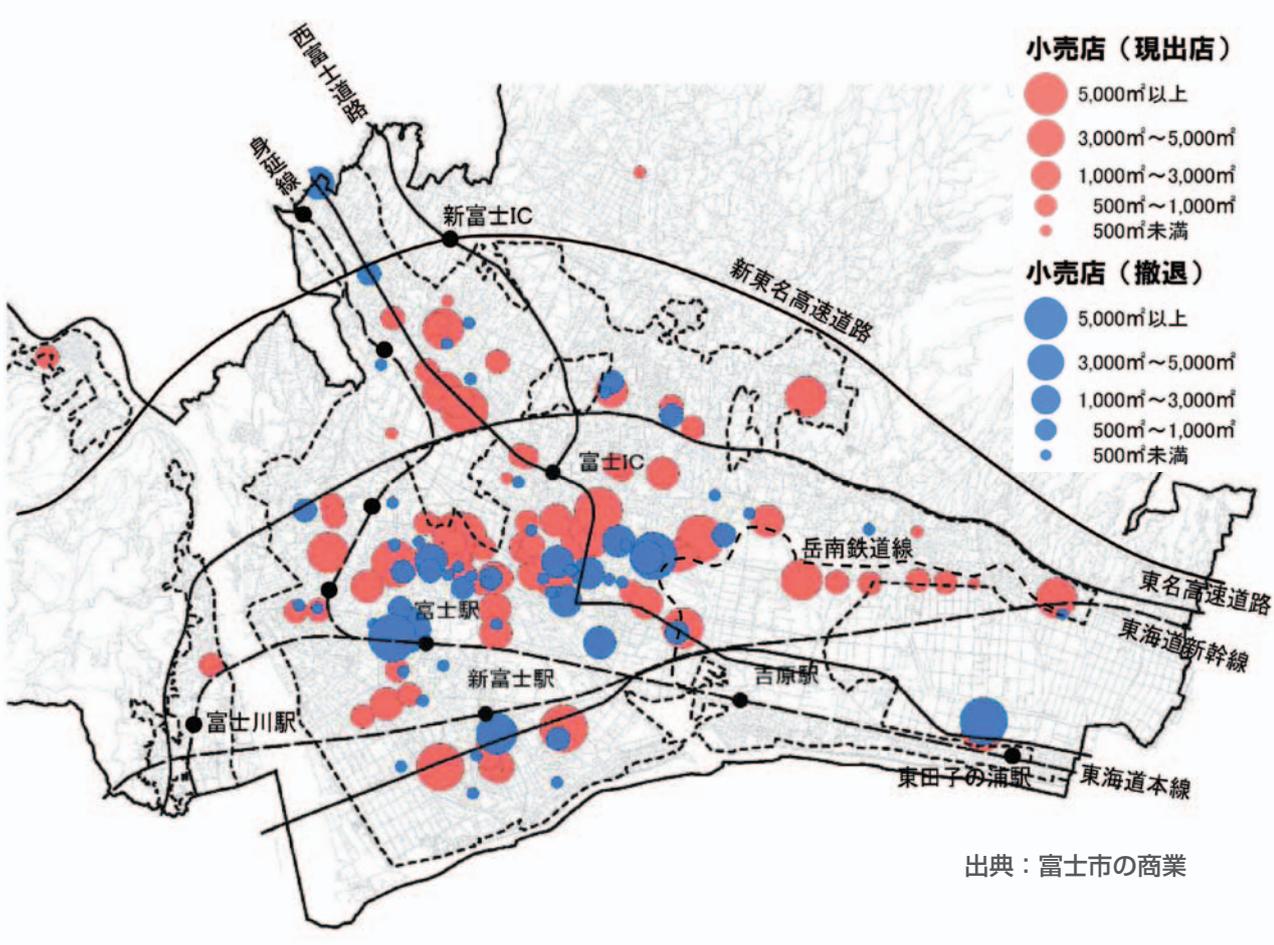
第1章 富士市の現状、まちづくりの課題及び方向性

1 富士市の現状

2 富士市のまちづくりの課題

3 富士市のまちづくりの方向性

【規模別小売店舗の出店・撤退状況】



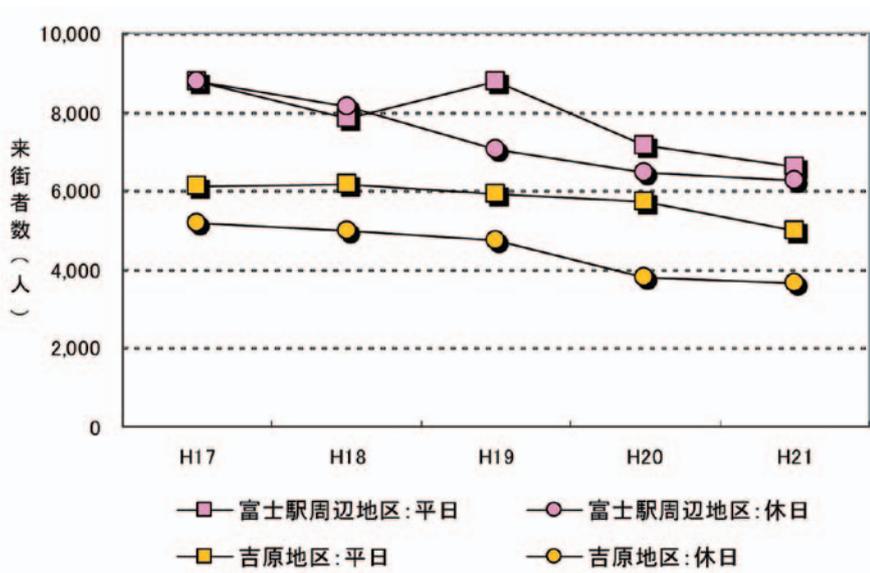
第1章 富士市の現状、まちづくりの課題及び方向性

1 富士市の現状

富士市のまちづくりの課題

富士市のまちづくりの方向性

【富士駅周辺地区及び吉原地区における来街者数の推移】



## 4 交通

本市の道路交通体系の骨格は、東西方向の新東名高速道路、東名高速道路及び国道1号バイパスと、南北方向の西富士道路及び国道139号によって形成されています。また、新東名高速道路と東名高速道路には、西富士道路との交差部に新富士ICと富士ICが設置されています。

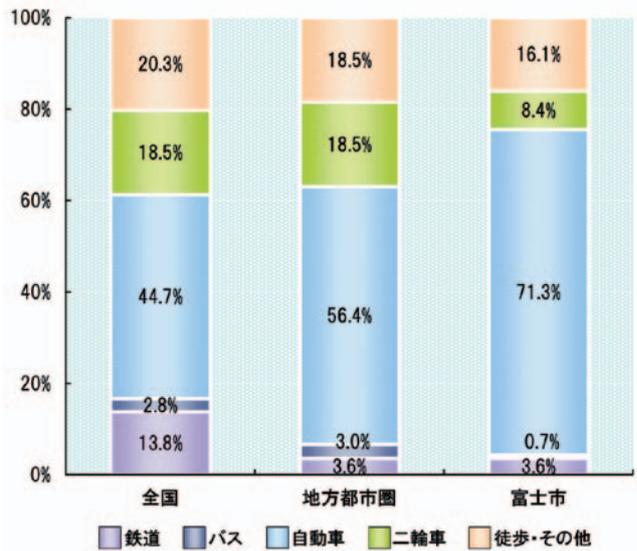
公共交通体系のうち、鉄道は、東海道新幹線、東海道本線及び身延線によって骨格が形成されており、新富士駅や富士駅などが設置されています。また、東海道本線吉原駅には、地方鉄道である岳南鉄道線が接続しています。

バスは、吉原中央駅と富士駅を主要ターミナルとして、路線バスやコミュニティバスが運行されています。また、利用需要に合わせて乗り合い方式で送迎する、デマンドタクシーも運行されています。

このように、本市には多様な交通体系が形成されていますが、移動手段の割合は自動車が約71%と非常に高くなっており、過度に自動車に依存している状況にあります。一方、鉄道やバスなどの公共交通は、僅か4%程度にとどまっているほか、利用者数も年々減少しています。

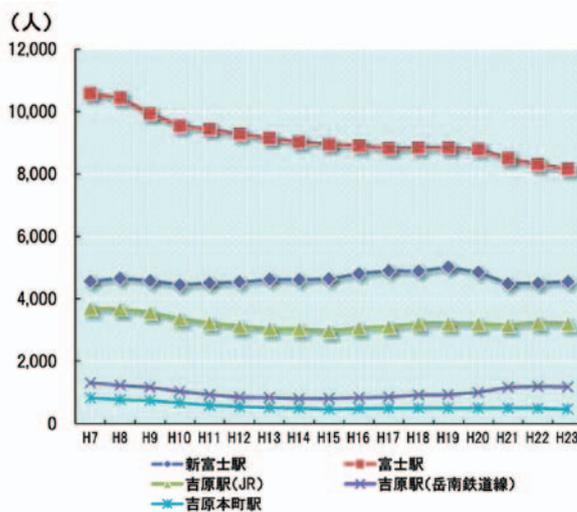
以上のことから、今後も過度に自動車に依存した状況が続いた場合、特に高齢者など、自動車を利用しない、利用できない市民の生活不安が増大するおそれがあります。

【日常の移動手段の割合の比較】



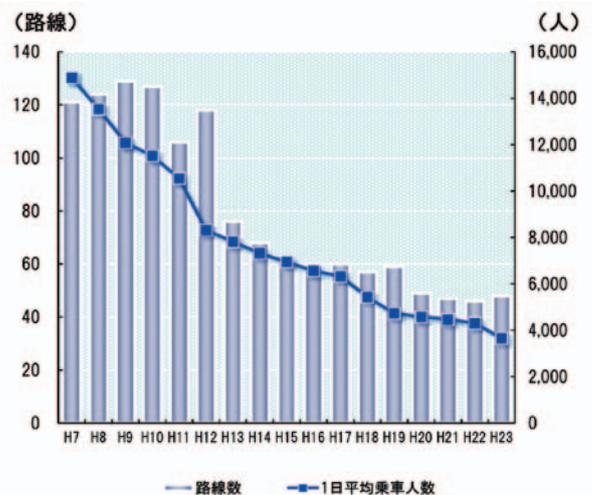
出典：パーソントリップ調査等

【主要な鉄道駅の1日あたり平均乗車人員の推移】



出典：富士市統計書

【路線バスの1日あたり平均乗車人員の推移】



出典：富士市統計書

5 環 境

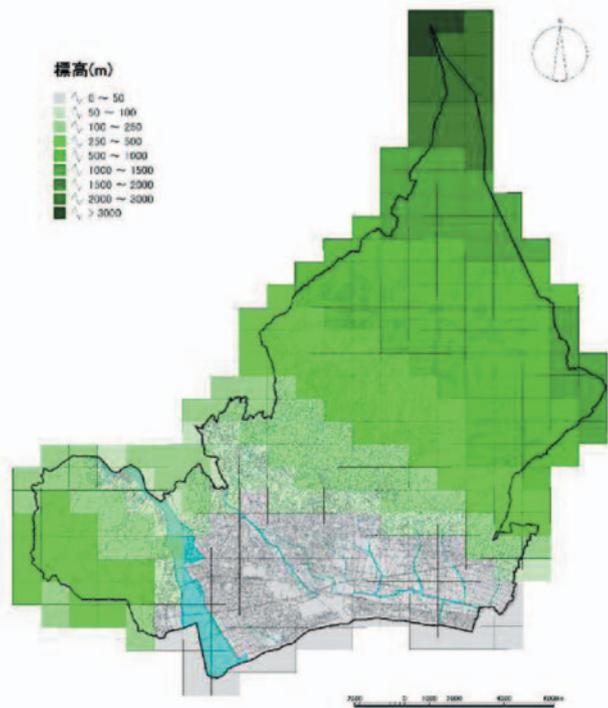
北に富士山を仰ぎ、南に駿河湾を望む本市には、山から海に至るまで多彩な自然環境が形成されています。緑豊かな森林や、そこから流れ出る河川や地下水・湧水は動植物の生態系を支え、また、市民の生活や産業活動に多大な恵みをもたらしています。

これら豊かな自然の恩恵を受ける一方、本市では、田子の浦港へのドロや大気汚染などの公害が発生し、大きな社会問題となった時期もありましたが、これまでの市民・事業者・行政の努力によりほぼ克服され、今日では、大きな公害を経験した都市として、自然環境との調和・共生を目指したさまざまな取り組みや活動が行われています。

このような中、近年では、二酸化炭素等の温室効果ガスの蓄積による地球温暖化の進行や、温室効果ガスが発生しないエネルギーの創出・安定供給などの環境・エネルギー問題が顕在化しています。

本市では、温室効果ガス削減の取り組みや、クリーンで再生可能なエネルギーの導入・普及に向けた取り組みを進めていますが、市街地が拡散した状況や過度に自動車に依存した状況が続いた場合、温室効果ガスの蓄積や非効率なエネルギー利用が進み、環境負荷が増大するおそれがあります。

【標高図】



出典：国土数値情報

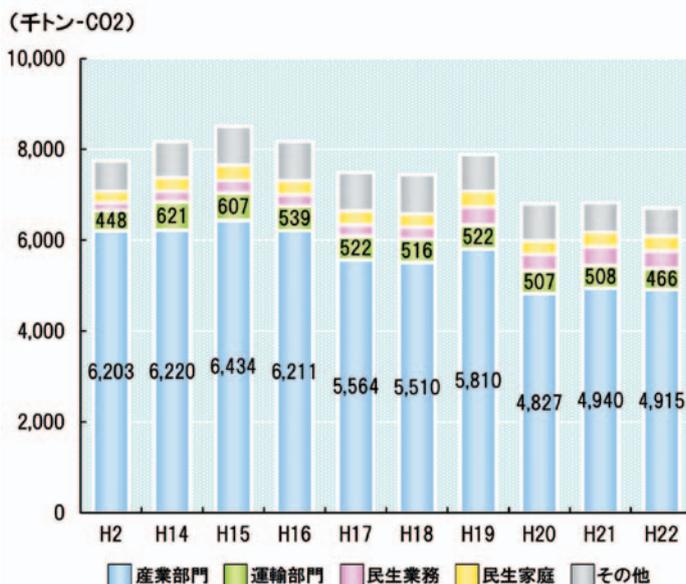
第1章 富士市の現状、まちづくりの課題及び方向性

1 富士市の現状

2 富士市のまちづくりの課題

3 富士市のまちづくりの方向性

【部門別温室効果ガス排出量の推移】



## 6 防 災

本市で過去に大きな被害をもたらした災害は、地震や台風によるものが多く、家屋の全半壊、床上・床下浸水、農地の冠水、道路の崩壊、崖崩れなどの被害が生じています。

また、東日本大震災の発生を受け、東海地震等の発生が危惧されている本市では、公共建築物や木造家屋の耐震化などに加え、地域においては、自主防災組織の強化や防災まちづくり訓練が行われるなど、防災に対する市民意識が高まっています。

しかしながら、今後の人口減少・超高齢社会の到来や、核家族化の進展などにより、地域コミュニティの弱体化が危惧されており、地域における防災力・復元力も低下するおそれがあります。

## 7 景 観

本市の景観は、富士・愛鷹山麓などの自然的景観や旧東海道などに多く見られる歴史的景観、そして住宅地や商業地、工業地での市街地・まち並み景観に大きく分類されます。

富士山や愛鷹山、また岩本山などは、自然的景観の代表的な要素になっているとともに、その山体や山容、斜面緑地は、まちの背景となっています。また、駿河湾沿岸の砂州や松林、富士川両岸の広大な富士川緑地、愛鷹山の麓に形成された浮島ヶ原、河川・湧水なども、豊かな自然的景観を形成しています。



富士山と富士川、駿河湾

旧東海道の宿場町として発達した吉原をはじめ、間の宿として形成された柏原、本市場、岩淵などでは、寺社や屋敷、一里塚など多くの歴史的資源が残されています。特に吉原では、古くからの町割りも残されています。

住宅地景観は、富士・愛鷹山麓に広がる山麓住宅地の景観、富士川地区や元吉原地区旧東海道筋、根方街道沿いなど風土的住宅地の景観、旧富士地区の在来集落から発展した平地住宅地の景観が形成されています。

商業地景観は、商業・業務施設が集積する富士駅周辺や吉原中央駅周辺などで形成されています。

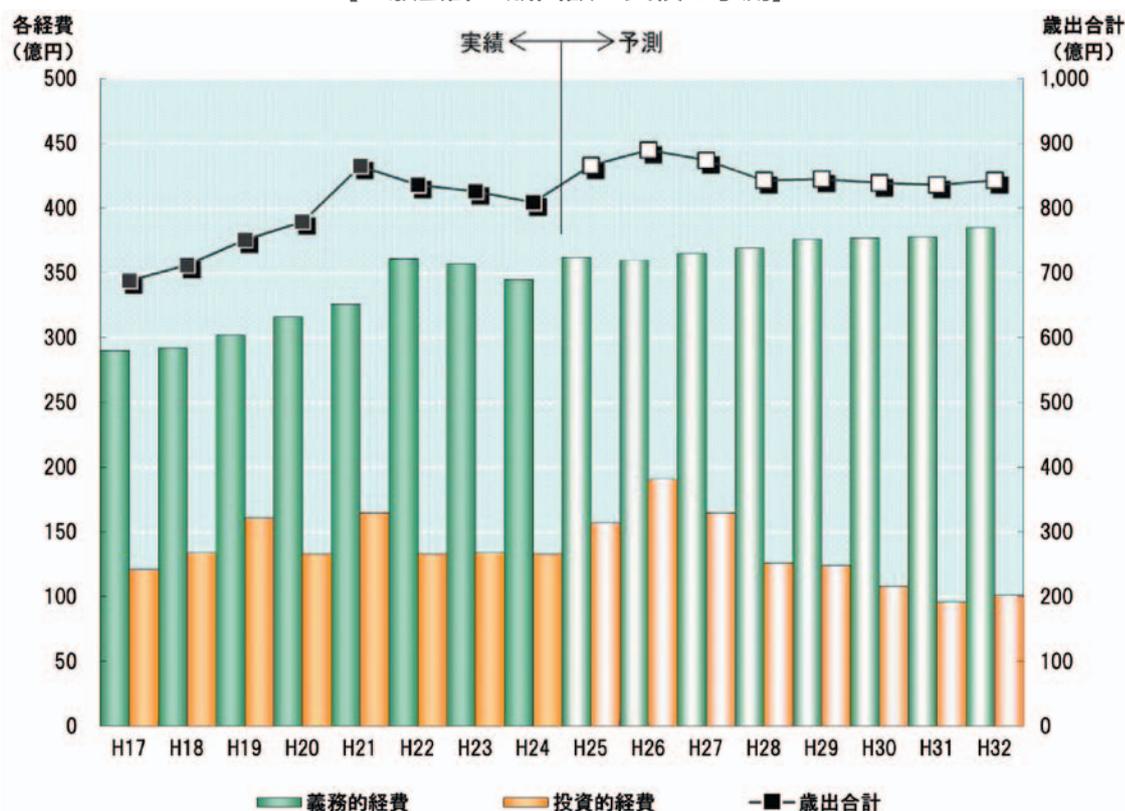
工業地景観は、田子の浦港周辺の一団の工業地を中心に形成されています。

8 財 政

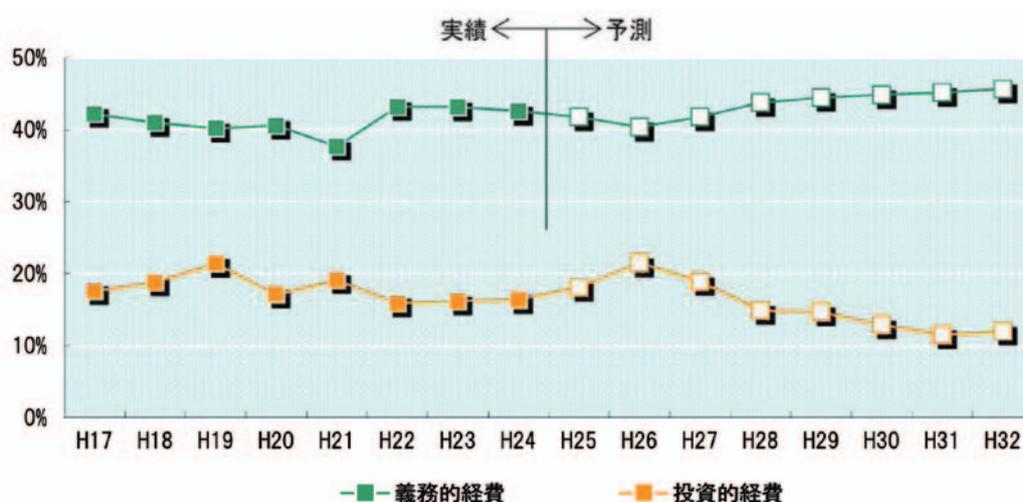
本市の歳入・歳出決算額は、人口の増加等を背景に増加基調で推移してきましたが、近年の歳出額の内訳をみると、社会保障関連支出などの義務的経費が一貫して増加傾向にあるのに対し、公共事業関連支出などの投資的経費は、増加傾向から横ばい傾向へと変化してきています。

今後は、超高齢社会の本格的到来により、この傾向がますます強まり、公共施設の整備や維持管理などに充てられる財源は限られてくることが予測されます。

【一般会計の歳出額の実績と予測】



【一般会計の歳出額全体に占める経費割合の実績と予測】



第1章

富士市の現状、まちづくりの課題及び方向性

1 富士市の現状

2 富士市のまちづくりの課題

3 富士市のまちづくりの方向性

## 1-2 まちづくりに関する市民の意向

現在と将来の富士市のまちづくりについて、市民が日ごろ感じていること・考えていることをアンケート調査し、その結果、時代の変化を反映した多様なニーズを以下の6つに整理しました。

### 市民意向 I

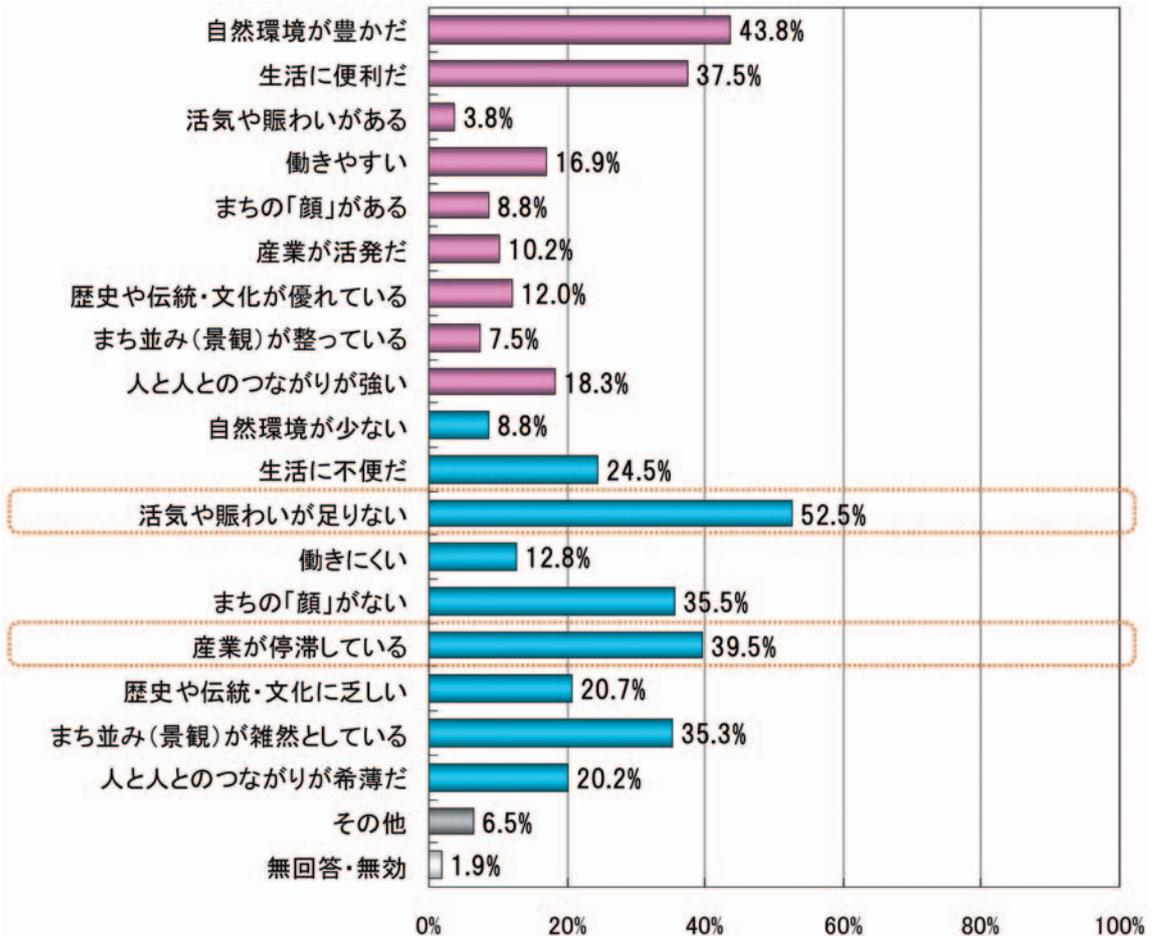
### 《現在の富士市の印象》

#### 活気や賑わいを創出するまちづくり

現在の富士市の印象について、市民の意向をアンケート調査すると、「活気や賑わいが足りない」や「産業が停滞している」と回答している市民が多くなっています。

このことから、多くの市民は「活気や賑わいを創出するまちづくり」を望んでいると推察されます。

【現在の富士市の印象】



市民意向 II

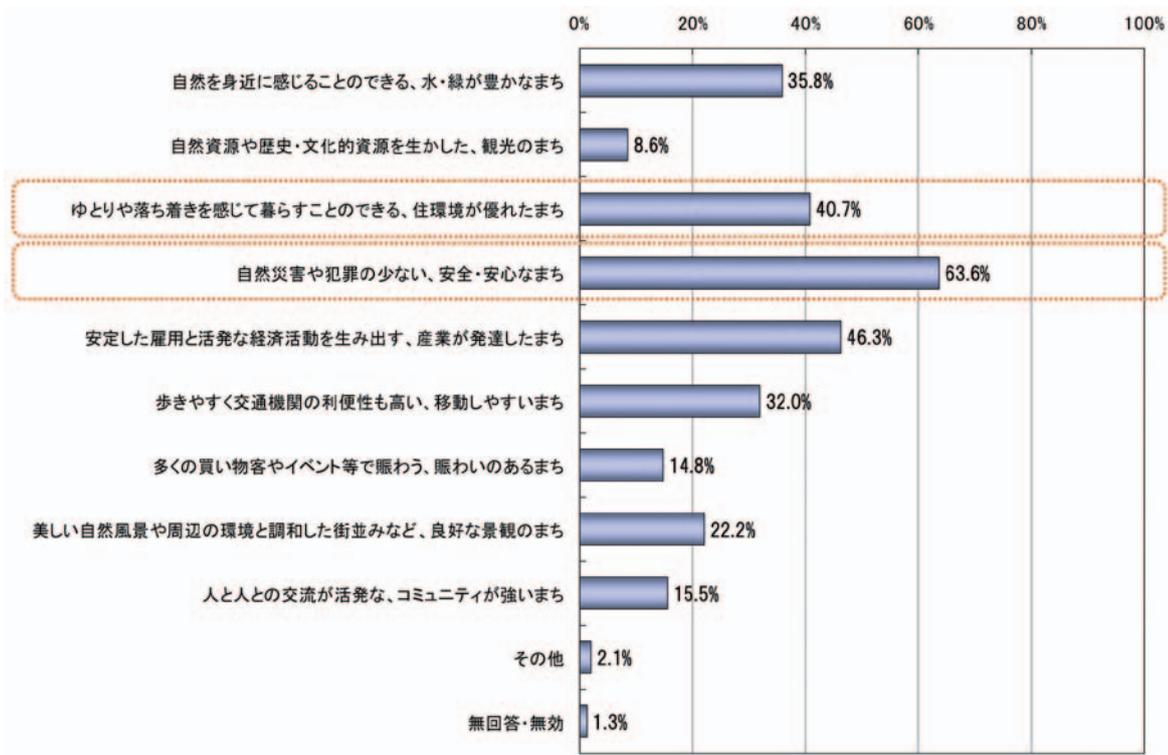
《将来の富士市のイメージ》

安全・安心・快適に住み続けることのできるまちづくり

将来の富士市のイメージについて、市民の意向をアンケート調査すると、「自然災害や犯罪の少ない、安全・安心なまち」や「ゆとりや落ち着きを感じて暮らすことのできる、住環境が優れたまち」と回答している市民が多くなっています。

このことから、多くの市民は「安全・安心・快適に住み続けることのできるまちづくり」を望んでいると推察されます。

【将来の富士市のイメージ】



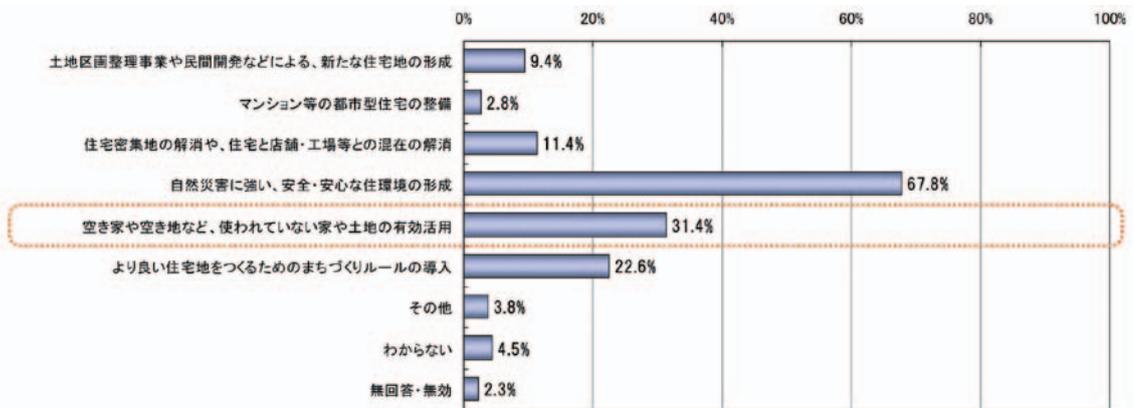
市民意向 Ⅲ

《居住地区での重要な取り組み》

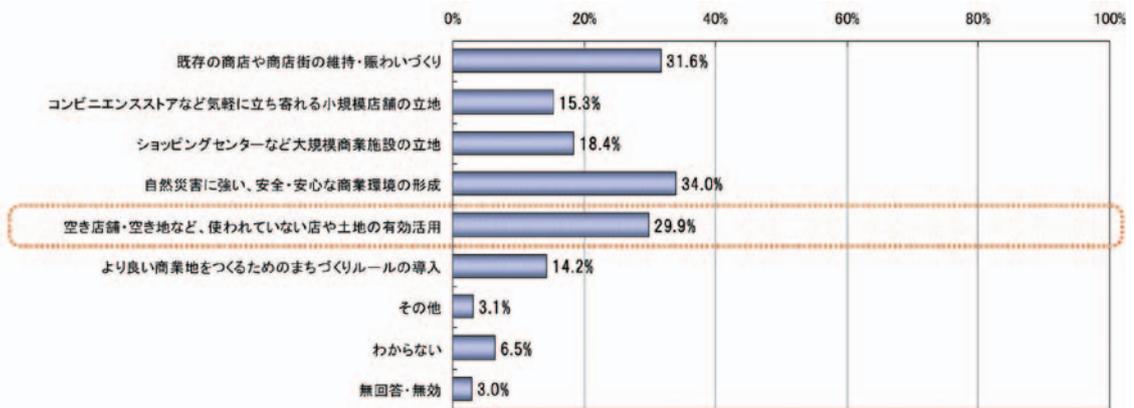
使われていない土地・建物を有効活用するまちづくり

居住地区での今後の重要な取り組みについて、市民の意向をアンケート調査すると、市民は、「自然災害に強い、安全・安心な環境形成」を望んでいると推察され(市民意向Ⅱに反映)、また、空き地や工場跡地、耕作放棄地や遊休農地などの「使われていない土地の有効活用」や、空き家や空き店舗などの「使われていない建物の有効活用」を望んでいると推察されます。

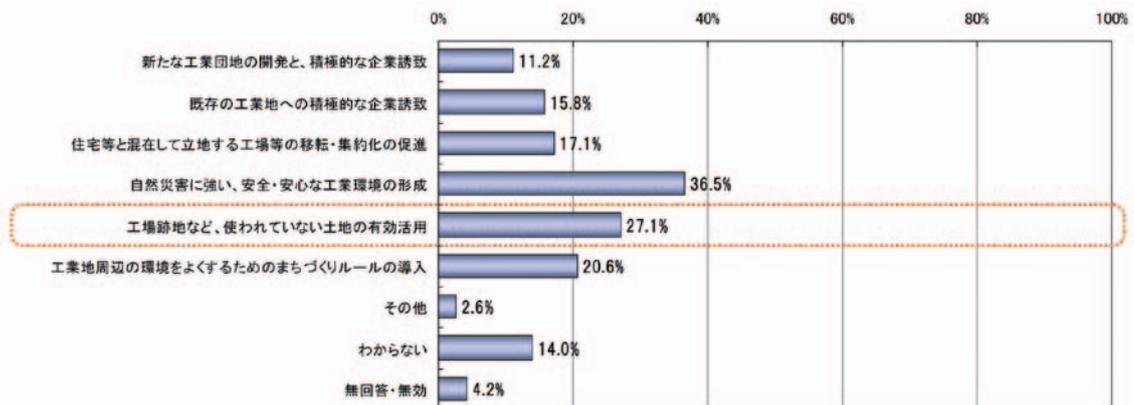
【居住地区での重要な取り組み(住環境)】



【居住地区での重要な取り組み(商業環境)】



【居住地区での重要な取り組み(工業環境)】



## 市民意向Ⅳ

### 《富士市の中心部と郊外部のあり方》

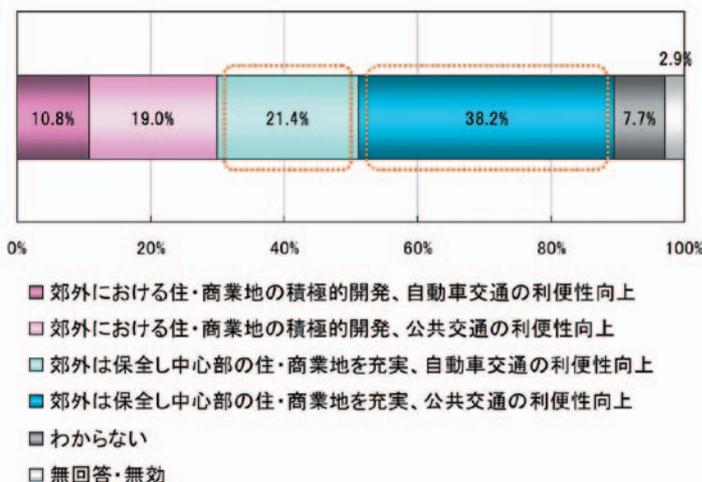
#### 市中心部の充実と、市内の移動利便性を高めるまちづくり

これからの富士市における中心部と郊外部のあり方について、市民の意向をアンケート調査すると、「郊外は保全し中心部の住・商業地を充実、公共交通の利便性向上」と回答している市民が突出して多くなっています。

また、「郊外は保全し中心部の住・商業地を充実、自動車交通の利便性向上」と回答している市民も多くなっています。

このことから、多くの市民は「市中心部の充実と、市内の移動利便性を高めるまちづくり」を望んでいると推察されます。

【これからの富士市の中心部と郊外部のあり方】



## 市民意向Ⅴ

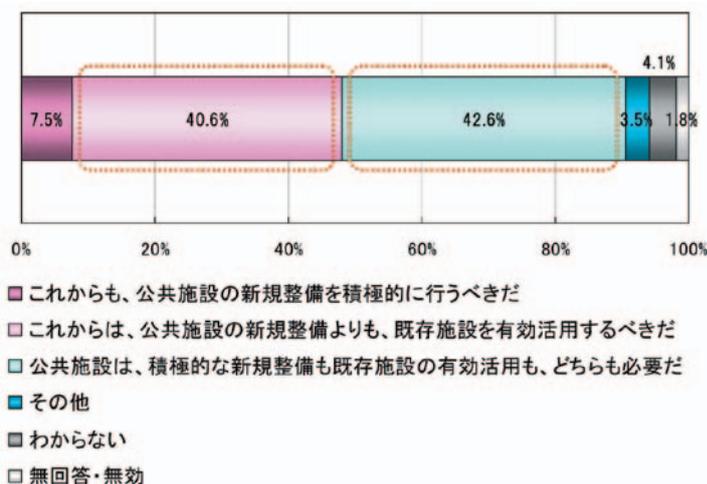
### 《公共施設整備のあり方》

#### 公共施設の新規整備と既存施設の有効活用を上手に組み合わせたまちづくり

これからの公共施設整備のあり方について、市民の意向をアンケート調査すると、大部分の市民は「公共施設は、積極的な新規整備も既存施設の有効活用も、どちらも必要だ」または「これからは、公共施設の新規整備よりも、既存施設を有効活用するべきだ」と回答しています。

このことから、多くの市民は「公共施設の新規整備と既存施設の有効活用を上手に組み合わせたまちづくり」を望んでいると推察されます。

【これからの公共施設整備のあり方】



市民意向 VI

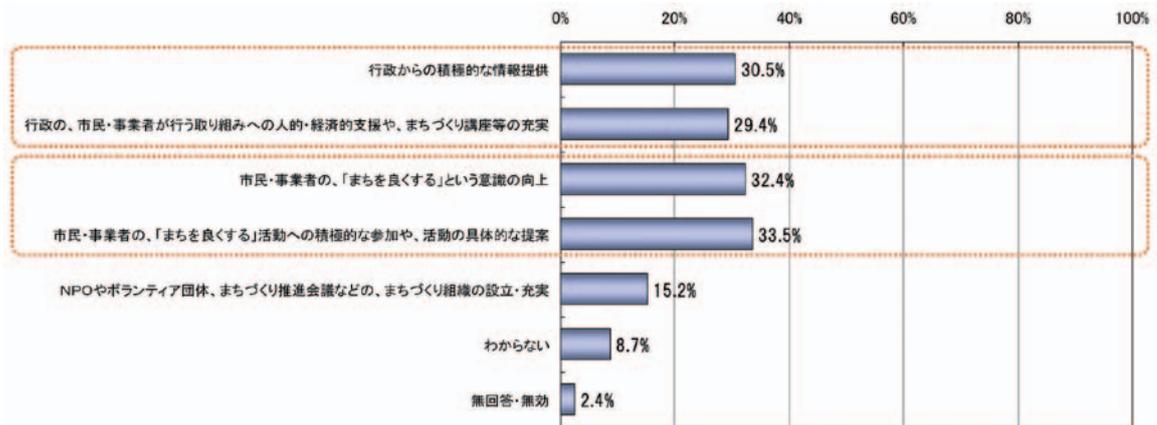
《市民・事業者・行政の役割》

市民・事業者・行政の協働によるまちづくり

まちづくりにおける市民・事業者・行政の役割で重要なことについて、市民の意向をアンケート調査すると、行政の役割である「行政からの積極的な情報提供」及び「行政の、市民・事業者が行う取り組みへの人的・経済的支援や、まちづくり講座等の充実」、また市民・事業者の役割である「市民・事業者の、「まちを良くする」という意識の向上」及び「市民・事業者の、「まちを良くする」活動への積極的な参加や、活動の具体的な提案」と回答している市民が多くなっています。

このことから、多くの市民は「市民・事業者・行政の協働によるまちづくり」を望んでいると推察されます。

【まちづくりにおける市民・事業者・行政の役割で重要なこと】



市民意向調査の概要

●調査対象及び抽出方法

- 調査対象：富士市に居住する満15歳以上の市民
- 抽出方法：住民基本台帳をベースとした単純無作為抽出

●調査方法及び調査期間

- 調査方法：郵便による配布及び回収
- 調査期間：平成23年12月5日(月)～12月19日(月)の2週間

●調査票配布数

- 調査票配布数：3,000票

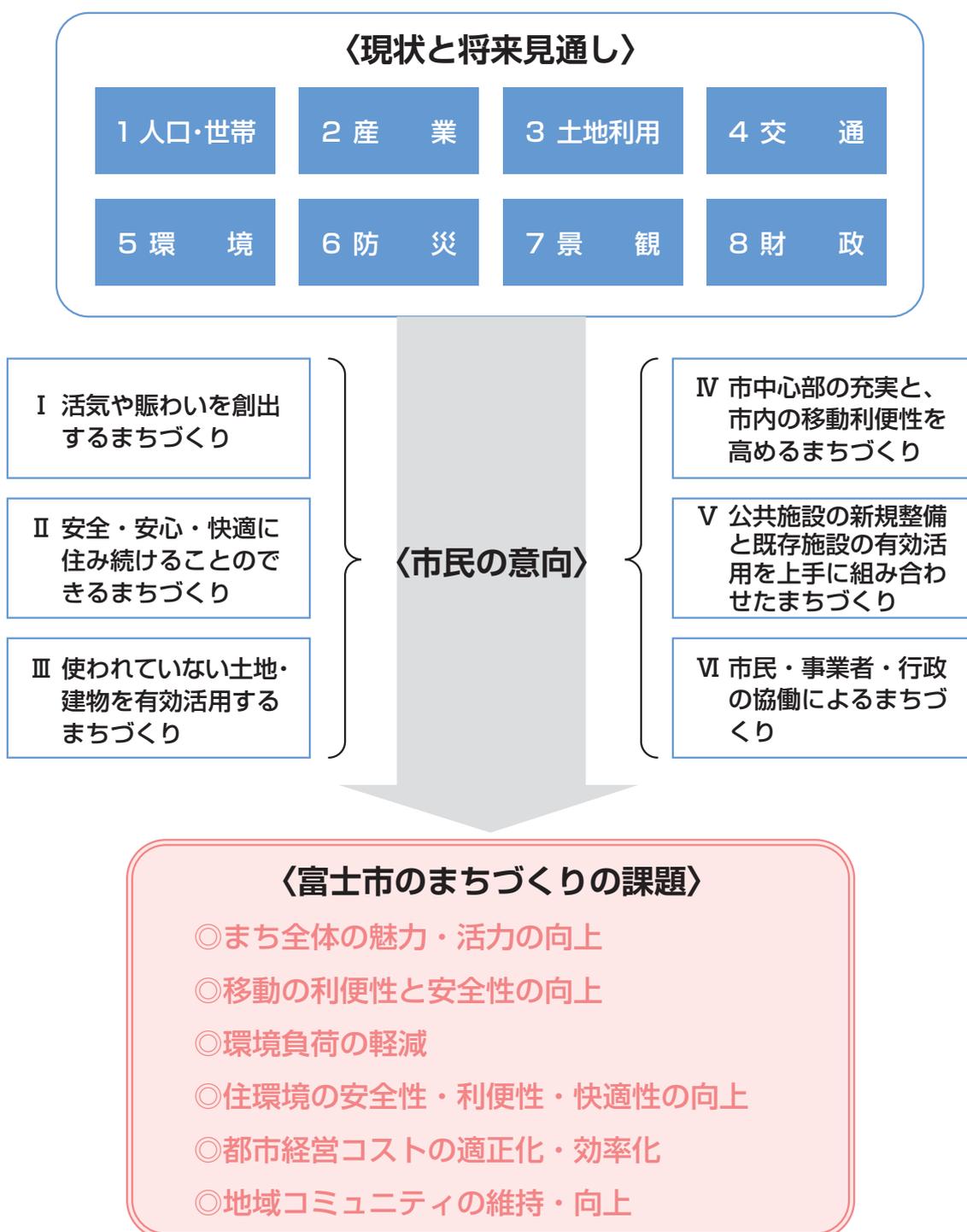
●有効回収数（回収率）

- 有効回収数：1,356票（回収率約45.2%）

## 2 富士市のまちづくりの課題

### 2-1 課題抽出の体系

本市の現状と将来見通し、また、まちづくりに関する市民の意向を総合的に踏まえ、これからの本市のまちづくりの課題を以下のように抽出しました。



## 2-2 富士市のまちづくりの課題

### ◎まち全体の魅力・活力の向上

- メリハリのある市街地の形成や、多様な地域資源の効果的活用などにより、まち全体の魅力・活力を高めること

※関連する富士市の現状

現状と将来見通し	産業、土地利用、交通、景観
市民の意向	活気や賑わいを創出するまちづくり

本市では、産業活力の低下や拡散型都市構造の形成などにより、まちの魅力がいつそう低下することが懸念されています。また、市民は「活気や賑わいを創出するまちづくり」が必要であると感じています。

そのため、今後は、都市機能の適正な配置と集約化によりメリハリのある市街地を形成するとともに、新東名高速道路、東名高速道路及び東海道新幹線の広域交通ネットワークを活用した産業基盤の維持・形成、富士山や駿河湾などの豊かな自然資源・自然景観を活用した顔づくりなど、まち全体の魅力・活力を高めることが必要です。

### ◎移動の利便性と安全性の向上

- 公共交通サービスの充実や、ユニバーサルデザインに配慮した交通施設の整備などにより、移動の利便性と安全性を高めること

※関連する富士市の現状

現状と将来見通し	人口・世帯、交通
市民の意向	安全・安心・快適に住み続けることのできるまちづくり 市中心部の充実と、市内の移動利便性を高めるまちづくり

本市では、高齢化率の高まりや、日常の移動を過度に自動車に依存していることなどから、高齢者をはじめ、自動車を利用しない市民の生活不安が増大することが懸念されています。また、市民は「安全・安心・快適に住み続けることのできるまちづくり」や「市中心部の充実と市内の移動利便性を高めるまちづくり」が必要であると感じています。

そのため、今後は、過度に自動車に依存しなくても生活できるよう、バスや鉄道などの公共交通サービスを充実するとともに、ユニバーサルデザインの導入により、誰もが分かりやすく安全な交通施設を整備するなど、移動の利便性と安全性を高めることが必要です。

## ◎環境負荷の軽減

- 温室効果ガスの削減や、エネルギー利用の高効率化に寄与する市街地の形成などにより、環境負荷を軽減すること

※関連する富士市の現状

現状と将来見通し	産業、土地利用、交通、環境
市民の意向	—

本市では、製紙などの製造業を中心とする産業都市として発展してきたことや市街地が低密度に拡散していることなどによって、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出・蓄積による環境負荷の増大が懸念されています。

そのため、今後は、温室効果ガスの削減やエネルギー利用の高効率化に寄与する市街地を形成するなど、環境負荷を軽減することが必要です。

## ◎住環境の安全性・利便性・快適性の向上

- 災害への備えの充実や、ニーズに応じた住宅の普及などにより、住環境の安全性・利便性・快適性を高めること

※関連する富士市の現状

現状と将来見通し	人口・世帯、防災
市民の意向	安全・安心・快適に住み続けることのできるまちづくり

本市では、世帯数が増加傾向であるとともに、高齢化率が高まっています。また、市民は「安全・安心・快適なまちづくり」が必要であると感じています。

この背景には、東日本大震災以降、地震や津波などの自然災害に対する意識が高まっていることや、核家族世帯や単身世帯、また高齢者世帯など、ライフステージに応じて世帯構成が多様化していることなどがあります。

そのため、今後は、ハード・ソフト両面から、自然災害への備えを充実するとともに、居住者のニーズに応じた住宅供給がされるなど、住環境の安全性・利便性・快適性を高めることが必要です。

## ◎都市経営コストの適正化・効率化

○既存の都市基盤の有効活用などにより、都市経営コストの適正化・効率化を図ること

※関連する富士市の現状

現状と将来見通し	人口・世帯、土地利用、財政
市民の意向	使われていない土地・建物を有効活用するまちづくり 公共施設の新規整備と既存施設の有効活用を上手に組み合わせ たまちづくり

本市では、人口の減少や高齢化率の高まりを背景とした財政構造の変化に伴い、歳出総額に占める投資的経費の割合は減少していくことが予測されます。また、市民は「使われていない土地・建物を有効活用するまちづくり」や「公共施設の新規整備と既存施設の有効活用を上手に組み合わせたまちづくり」が必要と感じています。

そのため、今後は、市民に多大な負担が発生しないよう、優先性・重要性の高い都市基盤整備を進めつつ、既存の都市基盤を有効活用するなど、都市経営コストの適正化・効率化を図ることが必要です。

## ◎地域コミュニティの維持・向上

○地域のまちづくりを促進する仕組みの充実などにより、地域コミュニティの維持・向上を図ること

※関連する富士市の現状

現状と将来見通し	人口・世帯、防災
市民の意向	市民・事業者・行政の協働によるまちづくり

本市では、人口の減少や高齢化率の高まりに伴い、地域コミュニティの衰退が懸念されており、東日本大震災以降、防災の取り組みや災害発生後の対応など、地域コミュニティの重要性が見直されています。

また、市民は「市民・事業者・行政の協働によるまちづくり」が必要と感じており、既に多くの地区において、独自の個性的な活動が行われています。

そのため、今後は、市民や事業者等のまちづくりの担い手を育成するとともに、まちづくりの担い手が活動する場・機会の創出、また人的支援や財政的支援などにより、地域のまちづくりを促進する仕組みを充実し、地域コミュニティの維持・向上を図ることが必要です。

### 3 富士市のまちづくりの方向性

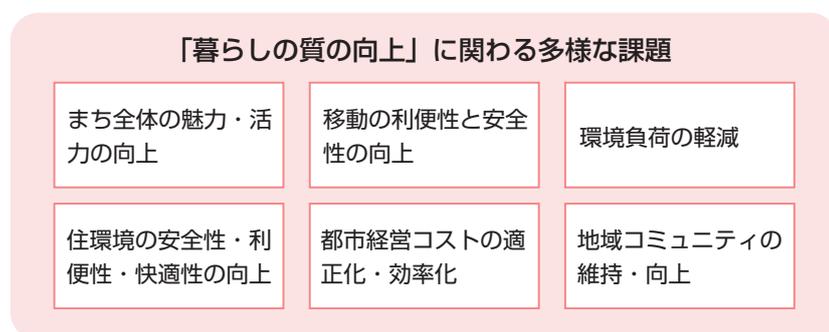
ここでは、富士市のまちづくりの課題を踏まえ、今後、本市が適切な方向にまちづくりの舵を切るための考え方を、まちづくりの方向性として明らかにします。

本市は、まち全体の魅力・活力の向上や住環境・移動環境の向上、また環境負荷の軽減など、「暮らしの質の向上」に関わる多様なまちづくりの課題を抱えています。

本市はこれまで、人口が増えることを前提にまちづくりを進めてきましたが、今後は、人口減少を前提にしなければ、的確なまちづくりにはつながりません。

このことから、人口増加時代の「つくる・ふやす」考え方から、人口減少を前提としながら長期的視点を持った計画的な「いかす・まもる」考え方に軸足を移し、人口が減少しても暮らしの質が低下しないようなまちづくりを進めていく必要があります。

本市では、今後、「持続可能なまちづくり」に舵を切ることで、都市の健全性と質の高い暮らしが将来にわたって続いていくことを目指します。



人口減少・超高齢社会の本格的到来を踏まえた  
これからの時代にふさわしい考え方のまちづくり  
～「つくる・ふやす」から「いかす・まもる」へ～

**富士市のまちづくりの方向性**

**持続可能なまちづくり**

#### 第1章

#### 富士市の現状、 まちづくりの課題及び方向性

##### 1 富士市の現状

##### 2 富士市の まちづくりの 課題

##### 3 富士市の まちづくりの 方向性

「持続可能なまちづくり」とは、都市の健全性と質の高い暮らしが将来にわたって続くことを言いますが、具体的には、社会面・経済面・環境面で、都市が良好な状態で保たれているイメージです。

【持続可能なまちづくりのイメージ】

第1章 富士市の現状、まちづくりの課題及び方向性

1 富士市の現状

2 富士市のまちづくりの課題

3 富士市のまちづくりの方向性

